

NEWS

New hospital of East, West and South medical centers

vol.67 | 糖尿病



Kuwana City Medical Center

2018年4月桑名東・西・南医療センターが1つになり新病院が誕生しました。

Take Free



特集

糖尿病内分泌内科

みなさんは糖尿病をご存じですか？日本では糖尿病が強く疑われる者（糖尿病有病者）が1196万人、糖尿病の可能性を否定できない者も1055万人と推計されています（2019年国民健康栄養調査）。

糖尿病を患っている方はとても多く、4人に1人は治療を受けていないと言われています。糖尿病初期は、痛くもかゆくもない病気です。しかし、放っておくと、状態がより悪くなる方もいます。特集が少しでも受診のきっかけになればうれしく思います。

さあ、一緒に勉強
していきましょう！

☑ 糖尿病啓発イベント



当センターでは世界糖尿病デーの一環として、毎年糖尿病啓発イベントを開催しています。血圧・血糖値測定や健康相談が出来るブースを設置したり、食品サンプルとパネルの展示などを行い啓発に努めています。



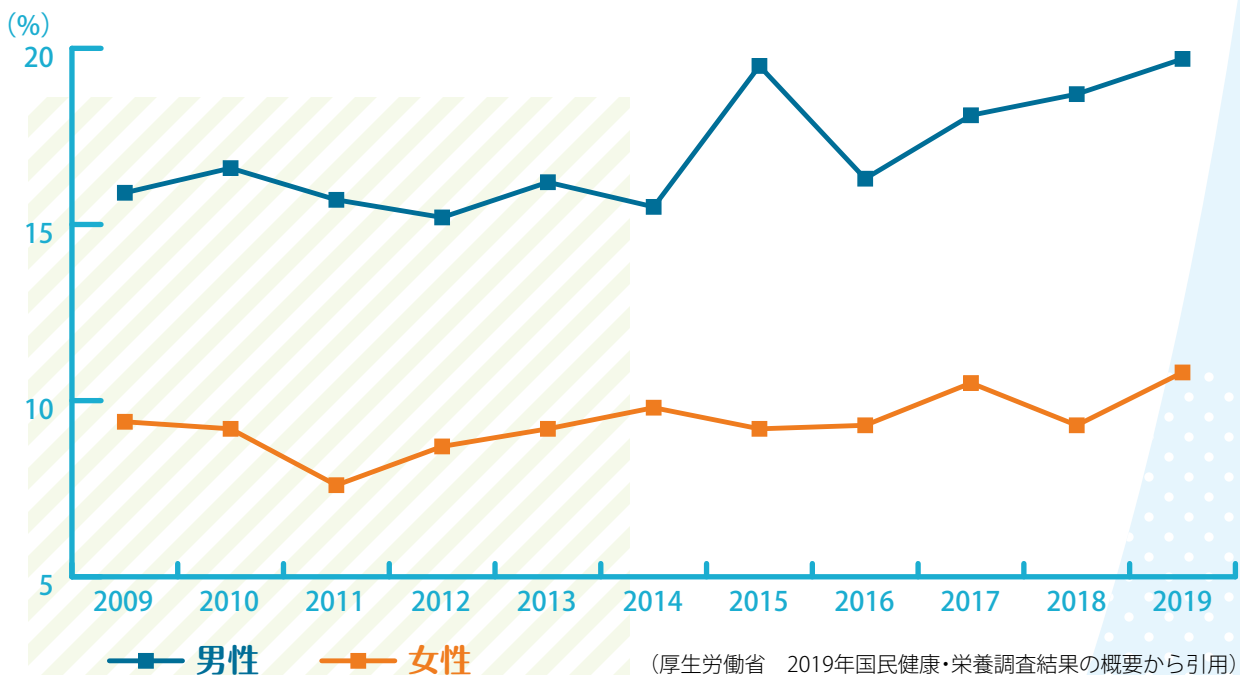
血糖測定や血圧測定をしている様子

☑ 「糖尿病が強く疑われる者」の割合



糖尿病が強く疑われる者の割合は、2019年に行われた厚生労働省による調査では男性19.7%、女性10.8%となっています。この10年間の調査では、男女ともに有意な増減はみられませんが、年齢階級別にみると年齢が高い層でその割合が高い状態になっています。

「糖尿病が強く疑われる者」の割合



(厚生労働省 2019年国民健康・栄養調査結果の概要から引用)



合併症



糖尿病の診断基準は空腹時血糖値126mg/dl、食後2時間値が200mg/dlとなっています。なぜこの基準になっているかご存知ですか？それは、この基準値を超えてくると合併症が増えてくる可能性が高くなるからです。では、そもそも合併症とは何のことかご紹介したいと思います。

合併症は

しめじ

えのき

です！

もちろん、身体からキノコが生えてくるわけではありません。



し・め・じは、

- し 神経障害
- め 目（網膜症）…最終は失明！？
もうまくしょう
- じ 腎障害…最終は透析療法！？



え・の・きは、

- え 壊疽（足の壊疽）
えそ
- の 脳梗塞
- き 狭心症を含む冠動脈疾患

検査

音叉を使って手足の感覚を調べたり、足の確認をし、白癬菌(水虫)がないかどうかのチェックをしています。

他にも血液検査、尿検査、超音波検査があります。

おんさ
音叉を使って感覚を調べている様子



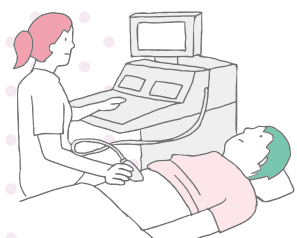
血液検査



尿検査



音叉



超音波検査

糖尿病の治療は、食事、運動、薬物療法の3本柱です

食事

食事は医師がカロリーを計算し、その後、管理栄養士と共に情報共有を行います。管理栄養士が患者さん個々の栄養摂取状況を把握し、栄養過多ではないか、逆に少なすぎていないかをチェックし、適切な食事のアドバイスをしています。

糖尿病になると逆に食事を極端に控えてしまい、筋肉量が落ちてしまう方もみえます。筋肉を保ちつつ、適切なカロリーを摂取できるよう、患者さんに寄り添いながら栄養相談を実施しています。



運動

運動をすることで、2型糖尿病患者さんのHbA1cを0.5-0.7%改善することができます。また、糖尿病患者さん以外にも、61歳以上の人で3.3km＝およそ4800歩歩くと死亡率が半減するというデータや週1回の運動でアルツハイマーリスクを41%低下できるといった報告もあります。最近では歩数計機能を搭載したスマートフォンも増えていますので、一度確認してみることをお勧めします。

また、桑名市では「健康マイレージ」制度を実施しています。市内のさまざまな企業や店舗などでお得な特典などが用意されていますので、ぜひご活用ください。

スポーツクラブやドラッグストア、はたまた銀行までおトクに利用ができるようですよ！

薬物療法

薬物療法として、インスリン注射やその他の注射製剤、飲み薬があります。インスリンは最終手段ではなく、早めに使うことで疲れ切った膵臓を休めることにより、再度、飲み薬に戻ることができる方もいます。注射針もかなり良いものが開発されてきており、ほとんど痛みを感じない方もいます。もちろん、飲み薬で対応できる患者さんがほとんどですのでご安心ください。

私たちは患者さんの希望を聞きながら、患者さんそれぞれに応じた診療を日々行っています。



糖尿病療養支援チーム

糖尿病療養支援チームとは？

はじめまして。私たちは、桑名市総合医療センターの**糖尿病療養支援チーム**です。現在、糖尿病患者さんは非常に多く、診療を糖尿病の医師だけで行うことは難しいため、多くのメディカルスタッフが参加するチーム医療として活動しています。糖尿病療養支援チームでは、患者さんの病気の進行や合併症を予防し、生活の質を高め、健康な人と変わらない生活が送れるよう支援を行っています。

対象は、年齢を問わず、小さな子どもさんから高齢の方まで、糖尿病と診断された患者さんや、その家族の方などです。

糖尿病療養支援チームの構成と職種ごとの役割

糖尿病内分泌内科医師

糖尿病療養医療チームのリーダーです。活動全般に関わります。



看護師

また、糖尿病合併症の予防や悪化防止のため「透析予防指導」や「フットケア」を行い、患者さんの自宅でのセルフケアもサポートしています。

※写真：左から「糖尿病連携手帳」、「当院オリジナルの糖尿病テキスト」、「血糖自己管理ノート」



糖尿病について合併症や、自己血糖管理について説明します。患者さんの生活状態をお聞きし、より良い血糖管理についてサポートします。



糖尿病における末梢神経障害予防と足病変予防のためのフットケアを行っています。患者さんの足の状態を観察しながらセルフケアができるよう支援を行っています。

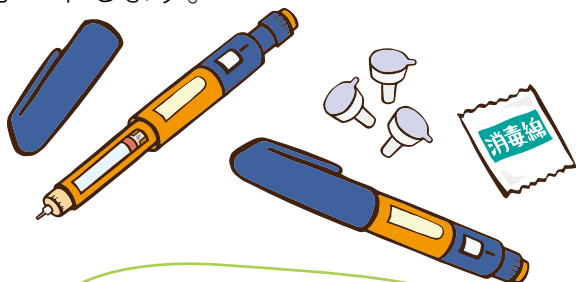
管理栄養士

栄養相談を行います。栄養相談には、集団で実施する「糖尿病教室」とマンツーマンで行う「個別指導」があります



薬剤師

糖尿病の薬について個別で説明を行い、サポートします。



インスリン注射の使用方法は
デモ機を用いて説明します。



臨床検査技師

血糖自己測定器の説明などを行います。



当センターではCDEJ(糖尿病療養指導士)と共に、合併症予防に努めています。



CDEJ (糖尿病療養指導士)

糖尿病患者さんは、血糖の自己管理を正確に行い、生活状況を整えることで、糖尿病でない方と同じ生活を送ることができます。私たちは、そのお手伝いをさせていただいてます。当センターには、糖尿病療養指導士の有資格者が13名おり、日々患者さんの合併症予防取り組んでいます(2023年5月現在)。



糖尿病のことで気になることがある患者さんは、ご相談ください。

With you 医療人



医療安全管理室の ご案内

患者さまが安心して安全な医療を受けられることを目的として、医療安全に取り組んでいます。また医療安全に関する患者さまからのご相談にも応じています。

医療安全管理室では下記の取り組みを行っています。

1. ヒヤリハット報告書の収集、分析
2. 安全対策の立案、評価
3. 医療安全に関する情報の把握と職員への周知
4. 規定、マニュアルの見直し
5. 医療安全研修の企画・運営



医療安全管理室長 早川 武司

医療安全管理室では、医療安全管理委員長と医療安全管理室長が協力し日々医療業務を行っている職員から提出されるインシデントレポート※1を分析し業務改善を行っています。また、医薬品安全管理責任者と医療機器安全管理責任者が協力し病院内のラウンドを行い、患者さんに安全な医療が提供できるよう努めています。

医療安全に関する相談窓口も入院棟3階地域連携室内に設置しています。各部署にリスクマネージャーを配置し、リスクファクター※2を無くすように努力しています。

※1:事故につながりかねない医療行為を未然に防げた例や、実施されたが結果的に患者に傷害や不利益を及ぼさなかった事象、日常診療で起こりそうな医療事故や医療過誤などに事前に気付いて対処できた事例等のこと

※2:危険を引き起こすかもしれない要因

医療安全管理室の1日

朝一番にすること!



インシデントの
集計・分析を行います

カンファレンス



院内での
インシデントレポートの内容を
チームで共有します



医療安全管理委員長
山田 典一

医療安全管理室では、患者さんに安心して安全な医療を受けていただくために日々活動しています。職員に対する教育を行い、医療安全に対する意識を高める活動を行いながら、院内で発生した事象を職員間で共有し、医療事故につながる事象の再発防止や医療事故の発生防止に努めています。

一般的に「おくすり」はどのような意味で使っていますか？薬、薬剤、薬物、薬品、医薬品と「薬」を使う言葉はいくつかありますが、実は少しずつ意味が異なります。病院や診療所、保険薬局からもらう「おくすり」に一番近いのは「医薬品」です。それを取り扱うのは患者さんをはじめ、医師、看護師、薬剤師など様々な人達がいるため、医薬品を安全に使用し、適正な管理をするための責任者として医薬品安全管理責任者がいます。医薬品安全管理責任者は、医療安全管理室をはじめとする医療安全にかかわる方々と連携し、日々活動しています。



医薬品安全管理責任者
伊藤 久美子



医療機器安全管理責任者
渡辺 俊文

病院内の医療機器全般に係わる者であり、医療機関に設置することが定められている「医療機器の安全使用のための責任者」です。求められる役割には、「安全使用のための研修の実施」「保守点検計画の策定及び実施」「安全使用に必要となる情報収集及び改善のための方策実施」が挙げられます。研修及び保守点検は、病院内の様々な部門と協力・協議のうえ、計画を策定・実施する必要があるため、連携が不可欠です。収集した安全使用情報は毎月開催される医療機器安全管理委員会及び医療安全委員会で報告し、病院全体への周知ができるように努めています。

ラウンド



安全に業務が行われるよう、薬剤等もチームでチェックします

委員会



ラウンドの結果等を報告します

ストレス社会の病 うつ病

現代社会には様々なストレスがあるとよく指摘されています。

- 労働が過重あるいは不規則
- 職場・学校や家族の中の人間関係が上手くいかない



精神科
田中稔久 医師

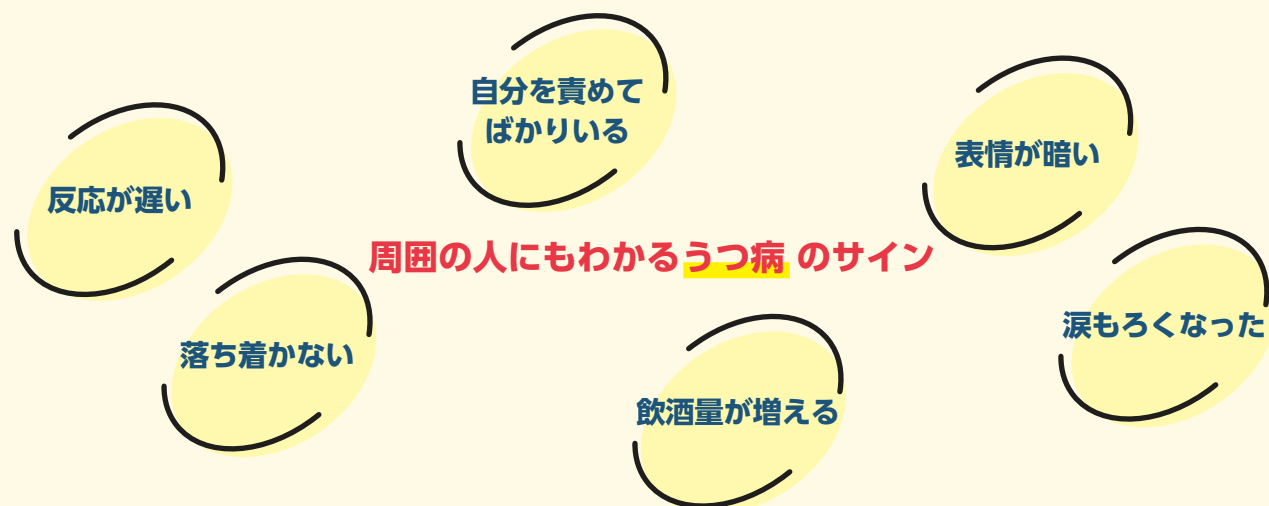
等々の問題は心的ストレスとして個人の心に重くのしかかってきます。

このようなストレスが原因として発症する病気に「うつ病」があります。特に春頃は入社(入学)や配置転換など、社会環境や人間関係が変化する時期であり、こういった問題が多発しやすいことが知られています。



うつ病は、一日中気分が落ち込んでいる、何をしても楽しめないといった精神症状と共に、眠れない、食欲がない、疲れやすいなどの身体症状が現れ、日常生活に大きな支障が生じる病気です。日本では、約100人に6人が生涯のうちうつ病を経験するという調査結果があります。また、女性の方が男性よりも1.6倍くらい多いことが知られています。女性は、ライフステージに応じて、妊娠や出産、更年期と関連の深いうつ状態やうつ病などに注意が必要となります。

うつ病は脳の病気ですが、そのメカニズムの詳細は分かっていません。しかし、セロトニンやノルアドレナリンといった神経伝達物質の増減が関与していることは明らかであり、これらに関連する有効な薬剤が治療に使われています。治療法としては薬剤以外に、精神療法、認知行動療法や、重度および長期間よくなるらない方に対しては修正型電気けいれん療法、経頭蓋磁気刺激法などが用いられています。重症になると「死んでしまいたいほどの辛い気持ち」が現れることもあるため、うつ病かなと思ったら、早めに専門家に相談することが大切です。また、家族や職場の人であっても、疑われる場合は受診を勧めてあげることが重要です。



『病院貢献賞』表彰式

第1回権田記念 病院貢献賞表彰式が令和5年5月8日(月)挙行されました。



当センターの診療レベルや患者サービスの向上、業務改善などに著しい業績を挙げた部署や職員を表彰するために「権田記念病院貢献賞」を創設しました。この賞は、キング観光株式会社社長である権田氏より「病院職員の福利厚生のために役立てて欲しい」との崇高なお志により、毎年多額のご寄付をいただいております。それを職員に還元するために設けられたものです。

募集を行ったところ50件もの応募があり、厳選なる審査の結果1位～3位には表彰状と目録、4位～10位には副賞・賞金、11位以下には参加賞が贈呈されました。

『新型コロナウイルスの入院患者対応について』



当センターでは、2020年3月からCOVID-19(コロナ)の受け入れ対応がはじまりました。当初、コロナは未知の病気で、その感染力の強さから、世間全体がこの病気に脅威を感じていました。終息の目途が立たない中、コロナは変異を繰り返し、結果的に3年間が経過しました。その間、私たちはあらゆる職種の方と協力し、患者さんの診療や治療、看護を行ってきました。コロナは5月8日から5類に変更(インフルエンザと同様)となりますが、今後も推移を見守り緊張感をもって対応を行っていきます。

『新型コロナウイルス感染対策及び院内感染防止について』



病院貢献賞をいただきありがとうございます。新型コロナウイルスで生活様式が激変し、医療従事者にとっても我慢、そして苦しい3年でした。

しかし、コロナ禍で感染対策を支えて下さったみなさんのおかげで、我々感染対策チームは専門家として活動することができ、大きな集団発生が起こることもほとんどなく、数ある波も越えられたと思っています。未だ終息が見えないコロナですが、今後起こるかもしれない新興感染症などからみなさんを安全に導けるよう、今後も活動していきたいと思っております。



『院内医療通訳の構築について』



今回の受賞は、私を取り巻く当センターの皆さんと10年近くの共同作業によって達成された賞です。

皆さんと作り上げたシステムにより、桑名市や周辺都市の外国人コミュニティは日本人同様、高いクオリティーの医療を受ける事が出来ています。ご指導、ご協力いただいている皆さんに心より感謝を申し上げます。また、当センターを信頼してくださっている患者さんにも、深く感謝を申し上げます。

*当センターでは現在、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語の3言語で医療通訳サービスを提供しています。



MIELSで準優勝を獲得しました!

2月4日

医療と消防の連携や、救急医療の知識と技術向上を目的としたMIELS(三重県救急救命標準化教育統合コース)に参加しました。医師2名、看護師2名、救急救命士2名で練習を重ねた結果、みごと準優勝という結果を収めることができました。



『女性が働きやすい医療機関』 として認証されました

3月13日

三重県から妊娠や子育て、家族の介護を担う職員への制度整備や働きやすい環境づくりなどへの取り組みが評価され、「女性が働きやすい医療機関」として認証されました。令和5年3月13日に三重県庁にて認証式が行われ、一見勝之三重県知事より認証書が授与されました。



牛乳の寄付をいただきました!

3月24日

大内山酪農農業協同組合様より、大内山牛乳3,000本の寄付を受け、感謝状を贈呈しました。職員一同、美味しくいただきました。



ゆめっこ保育園

◆◆院内保育園のご案内◆◆

桑名市総合医療センターでは、スタッフが安心して働けるようゆめっこ保育園を運営しております。職種・勤務形態に関係なく利用することができます。

入園対象

生後57日目～就学前迄の子供たちを対象に、0歳児(ひよこ組)、1歳児(うさぎ組)、2歳児(パンダ組)、3歳児～就学前(くま組)までの保育を行っています。また、通常保育に加え、夜間保育も行っています。

避難訓練

実際の災害を想定し、日頃から安全に避難できるように、防災頭巾を被って訓練しています。



給食

令和5年4月から待望の給食が始まりました。温かいご飯やスープ、手作りのおやつを美味しく頂いています。



特徴

当園は主に0歳児～2歳児の利用が多く、日々ゆったりとした環境の中、家庭的で暖かみのある保育を目指しています。子供たち一人ひとりの個性を生かし、その子自身が持っている力を大切に、心豊かな子に成長するよう育てていきたいとスタッフ一同、日々努めています。また、保護者の皆さんとのコミュニケーションを密にし、子供達の成長を共に楽しんでいきたいと思っています。



一緒に働きませんか？

STAFF募集中

助産師

正規職員・臨時職員

看護師

正規職員

認定看護師

正規職員

薬剤師

期限付臨時職員

社会福祉士(医療ソーシャルワーカー)

正規職員

臨床検査技師

正規職員

介護福祉士

正規職員・臨時職員

看護助手

臨時職員

歯科衛生士

期限付臨時職員

一般事務・医療事務・薬剤部事務職員

臨時職員



詳細については
WEBをご覧ください。

お問い合わせ先

桑名市総合医療センター 総務課

TEL: 0594-22-2015